

宮城から、伝えたいこと。

つながれ、どこまでも

Baton

バトン

VOL.

05

FROM MIYAGI

特集

3.11を 知らない世代 の伝承・防災

きて・みて

- 名取市震災復興伝承館
- 名取市震災メモリアル公園
- ゆりあげ港朝市／メイプル館



テーマ:

災害と若い力

machico防災部といっしょ：防災ポーチをつくろう

あしたのクリエイティブ：東北大学大学院・成田さんの避難誘導アドバルーン

バトンとは

世代や地域を越えて広く「伝える」、リレーのバトンのように「つなげていく」という意味を込めています。県内外や幅広い世代の方々が復興・伝承に興味を持ち、被災地へ足を運んでいただくことを目的に発行しています。



東日本大震災から12年。
当時まだ幼かった子どもたちは、高校生となりました。
3・11の記憶が残る、最も若い世代です。
被災の実情や復興へのあゆみ、震災後に改めて気づかされた地域の魅力を語るその姿には、
記憶と教訓を次世代へと受け継ごうとする確かな意志が感じられます。

3.11を知らない世代の伝承・防災

震災の伝承は、それを経験した者だけが背負うものではありません。もしその責務を負うのが、あるいはそれを許されるのが経験者だけならば、伝承はいつか途絶えてしまうでしょう。大きな混乱と喪失に打ちひしがれたあの日から12年。震災の記憶や防災意識が希薄になってきたといわれるなか、当時まだ幼かった若い世代が行動を起こし、県内各地で小さくても力強いうねりを生んでいます。

多賀城高校災害科学科の生徒たちは、とうに道路や橋のインフラが修復され、津波の痕跡も消えつつあるまちで、150もの津波波高標識を設置し、そこで何が起きたのか、自らが「習得した記憶」を自分の言葉で語り継いでいます。それは〈災害〉を〈科学〉してさまざまな分野にはばたく

生徒たちの、強力な基盤にもなっています。

石巻市では、地域の「ない」を「ある」にかえる経験が可能性を広げる、高校生の地域魅力発見・発信プロジェクトが進行中です。主役の高校生たちは、活動を続けるなかで震災の記憶に出合っって向き合うことで、地域に潜む魅力を知ることになりました。

いずれも震災当時は3歳から5歳。見聞きしたことを言葉にするすべも知らず、断片的な記憶を抱えて成長してきた、被災経験者の最後の世代です。大人たちとは異なる視点、異なるアプローチで3月11日の出来事に触れながら、「自分ごと」とした伝承を体現しています。

特筆すべきは、そこで生まれたものが、震災とは直接関係のない現場でも生かされ、思いがけないインパクトを与えそうだということ。そんな広がり、また新たな可能性を生み、これからの伝承・防災を底支えています。



先輩から受け継ぐ伝承活動

多賀城高等学校・災害科学科



左から、山本陸さん、佐藤悠真さん、遠藤彩吏さん、畑山絢音さん(いずれも災害科学科2年生)。

生徒の手による津波標識と「まち歩き」

多賀城のまちを歩くと、あちこちで青い波模様の標識を目にします。これは多賀城高等学校の生徒が設置した東日本大震災の津波高標識(津波標識)です。

2016年に新設された多賀城高校災害科学科は、兵庫県立舞子高校環境防災科に次ぐ国内2例目の防災専門学科。履修科目は、過去の災害に学ぶ「社会と災害」、減災や持続可能な社会実現のための能力を育む「科学技術と災害」、個人やグループでテーマを設定する「課題研究」など多岐にわたり、参加者を案内して津波標識をたどる「まち歩き」も開催しています。

津波標識設置は、震災の翌年頃から建物などに残る津波の跡が、風雨にさらされたり、修復されたりして薄れてきたことから、被災の痕跡を教訓として後世に伝えようと、生徒たちが測量による津波高の割り出しや、住民への聞き取り調査を行い、電柱などに印を付けたことがきっかけとなりました。

「まち歩き」は、2年生が中心となって、震災の記憶を伝える約50分間のプログラム。海岸から1キロ地点にあるイオン多賀城店を出発し、各スポットがどんな場所なのか、どんなエピソードがあるのか、生徒たちが「語り部」となって解説しながら、JR多賀城駅前の震災モニュメントまで歩きます。

コース上には、869年に発生した貞観地震津波に由来する「末の松山」もあります。大きな津波が襲っても、「末の松山」を越えることはできないとのいわれから、「越すに越せない大きな存在」を意味する歌枕となった地ですが、東日本大震災との関連も含めて説明することが難しく、「語り部」としての腕の見せ所にもなっています。

震災当時はまだ幼稚園の年中さん。被災の記憶はおぼろげで断片的だという生徒たちは、どんな思いで「まち歩き」に臨んでいるのでしょうか。

トルコ地震では集めた募金を大使館に届けました

いやというときみんなをひっぱる役になれるように



震災を知る最後の世代だからこそ伝えたい

お話を聞いたのは2年生の山本陸さん、佐藤悠真さん、遠藤彩吏さん、畑山絢音さん。山本さんは2018年の北海道胆振東部地震をきっかけに災害科学に興味を持ち、プロ

グラミング技術を生かして地震・津波の予測をしたいと考えています。佐藤さんは救急救命士となって災害医療現場で活躍するのが目標。父も兄も自衛官という遠藤さんは、災害科学科で学ぶうちに志望が自衛官から災害看護の道に変わりました。畑山さんは自然科学の観点から過去災害を研究したいと考え始めています。

「まち歩き」では日々継承されてきた情報や教訓を伝えるノウハウのほか、タブレットで震災当時の画像を見せて現在と比較したり、震災を体験した人から聞き取った経験談を交えるなど、それぞれ自分の工夫を加えています。日常生活のなかにかいかに防災意識を埋め込んでもらうかがポイントですが、生徒たちは参加者個々の知識のベースを正しく捉えて話すことが大切であると気づいたと言います。多様な年齢、背景を持つ人



〈上〉「まち歩き」コースは震災伝承ネットワーク協議会の「3.11伝承ロード 震災伝承施設」に登録されています。〈下〉案内役を経験した生徒たちは、コミュニケーション能力や自主性が高まったと言います。

【問い合わせ】
宮城県多賀城高等学校 <https://tagajo-hs.myswan.ed.jp/>
津波被災地まち歩きについて <https://tagajo-hs.myswan.ed.jp/machiaruki>

自分は大丈夫と思わずに、備蓄や避難の確認を

家では水と防災グッズの備蓄を担当しています



〈右〉7月22日の「まち歩き」に参加した熊谷さん一家。他県で生活した経験があり、「宮城県民は防災意識が高い」と語ります。〈左〉多賀城高校の震災伝承津波高標識。これまで、多賀城市内に150個設置しています。

東日本大震災津波痕跡
2011.3.11
TRACES OF TSUNAMI



〈右〉発掘した商品のことをよく知り、作られた背景まで理解することで、自信をもって販売できます。〈左〉商品発掘のためのインタビュー。企業のみなさんは、高校生を温かく迎え入れ、自慢の商品について熱く語ってくれました。



現在のメインプロジェクトは、2015年から始めた「高校生百貨店」。キャッチフレーズは、「遠く」を「近く」にするお店。ロゴマークとともに、これも高校生のアイデアによるものです。「店は再開したが従業員がいない」、「商品のPRに手が回らない」といった地元企業の声に応え、高校生がバイヤーとなつて、地元の商品を都市部で販売します。実際に販売するときには、商品の概要、生産者の想い、その背景、感想などをお客様に伝えなければなりません。初年度の高校生バイヤーたちは、40社にインタビューを行い、自分なりの売り口上を取りまとして、仙台・大阪で開催した「百貨店」に臨みました。「販売会では、いま、石巻はどうなの?」、石巻にボランティアに行ったことがあるよ」などと、お客様との会話が弾み、おひとりですぐさま商品のを買ってくださる方など

地元の魅力を発信！『高校生百貨店』の展開

もいらつしやって、みんなテンションが上がりました。販売会終了後も、商品を出展した企業に対し、直接取り寄せ依頼が来るなどの反響があり、企業も大きな手ごたえを感じてくれています。盛岡、郡山、東京など開催地も年々拡大し、リピーターも増えました。高校生はさまざまな人とのやりとりを通して地域の復興や魅力について考える機会を得て、蓄えた知識を外部に伝えるプ

レゼン能力が確実に身につけています。最近では、石巻は震災で傷ついただけのまちはではない、震災の経験も現在もまるごと受け止めてもらって、石巻の新しいイメージを作り出したいという自負も感じられるようになりました。今年も9月に参加者を募集し、冬休みに販売会を開催して春休みに販売会を開催します。また、岩手や福島の高中生と合同で盛岡や郡山での販売会も計画。そのかわり、会社のロゴマークやキャラクターのデザイン、ワークショップ設

計なども要望があれば応えるしくみができています。「このところ全国各地の高校生や運営側から『高校生百貨店』をやるにはどうしたらよいかという問合せが来ています。振り返ればカフェのスタートから10年。私たち運営側はこれまでのノウハウをまとめて他地域の団体に広める活動に取り掛かりたいと考えています」。



神澤さん。前職は建築関係。ソフト面を重視した空間づくりや人と人のつながりに携わりたいという思いを持っていました。



2012年から2018年まで営業した「高校生がつくるいしのまきカフェ」(かぎかつこ)。

大好きな石巻のため カフェ運営で就労体験

「かぎかつこPROJECT」は石巻市で若者を対象とする育成事業を展開する特定非営利活動法人。母体は、震災直後に若年層の居場所づくりを進めた大阪のまちづくり団体の活動です。代表の神澤祐輔さんは2013年に石巻に移住しました。「当時の石巻の高校生は被災から立ち上がろうと頑張る大人の姿を間近で見えていました。部活動もなくなってモヤモヤしたまま、自分たちも地域のために何かしたいと考える子が多かった。そこで、市役所1階に週末だけの『高校生がつくるいしのまきカフェ』(かぎかつこ)をオープンしました。店名も高校生のアイデア。かつこの中が空白なの

は、それぞれの個性を大事に、一つに決めつけずさまざまなプランクから自分たちが作り上げる可能性を意味します。神澤さんをはじめ3人のスタッフが石巻に常駐するようになってから、カフェは通年営業となり、約40人の高校生が学校の枠を超えて毎日入れ替わりながら運営に携わりました。商品開発・空間デザイン・情報発信の3チームでワークショップを重ねて、「石巻を元気にする」をコンセプトに、企画・運営に積極的に取り組み、2014年度にはグッドデザイン賞を受賞しました。高校生にとっては、部活動でもアルバイトでも体験できない就労体験のかたちとして、さまざまな学びの場と

になりました。「初期のカフェ運営メンバーの高校生は『3・11からの復興』という強い思いを抱いていました。でもだんだん高校生世代が抱く震災のイメージは薄らいで、参加者も減ってきました。当然です。仮に15歳で被災したらあの惨状も思いも自分の言葉で伝えられるけれど、5歳下の子にそれと同じ熱量は求められません。いしのまきカフェ」(かぎかつこ)は、少しずつ規模を縮小させながら2018年8月まで継続しました」。



取材協力 石巻第一自動車学校

石巻の魅力再発見に / つながっています

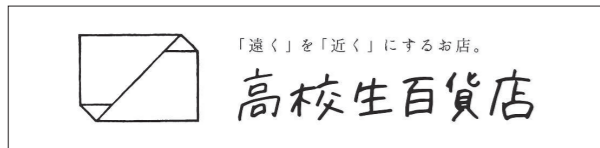


地元商品の魅力を発信する「高校生百貨店」。接客の訓練も受け、お客様とのやりとりを楽しみながら販売します。



バイヤーも広報も高校生たちが担当。その楽しさと難しさを実感する機会になっています。

接客を通じて / 地元プレゼンカの向上に



「遠く」を「近く」にするお店。高校生百貨店
ロゴマークは、高校生がよく使う手紙の形がモチーフ。生産者の「想い」を魅力ある商品とともに伝えることをイメージし、高校生たちが考案しました。

開催地を全国へ拡大中

#地元愛 #おいしいもの
#地元の推しが見つかる
若手・宮城・福島の3地域で開催!

2023年度参加メンバー募集中!

高校生百貨店

in TOHOKU

高校生百貨店は高校生がバイヤーとなり、地域の魅力ある商品を発掘し、商品の良さや作り手の魅力を販売会を通して発信するプログラムです。地域を知り、地域のために活動する第一歩を高校生百貨店で踏み出してみませんか?

対象:岩手・宮城・福島の高校に通う高校1年生~3年生

<p>＜オンライン開催＞</p> <p>8/10(木)・8/21(月)</p> <p>16:30~18:00</p> <p>zoomにて行います。申し込み済みに参加することができます。</p>	<p>＜対面開催＞</p> <p>8/9(水)・8/18(金)</p> <p>10:30~12:00</p> <p>会場:岩手県立大学附属盛岡女子大学 岩手県盛岡市盛岡1-1-1 宮城県:盛岡市盛岡1-1-1 福島県:盛岡市盛岡1-1-1</p>	<p>・登録申し込み ・プログラム参加の申し込み ・プログラムへの質問等 ※お問い合わせ先は、各開催地の事務局です。 ※申し込みは先着順です。定員に達した時点で締め切ります。</p> <p>申し込み締め切り 9月8日(金)</p>
--	---	---

運営 NPO法人かぎかつこPROJECT 助成 2023年度ヘタチ基金助成会

高校生百貨店の参加メンバーを今年も募集中。今回はエリアを拡大し、岩手県、福島県メンバーも募っています。

みんなで“防災ポーチ”をつくってみた!

私は「プライバシー」を
最優先!



「避難所の混雑した中でも、自分の物やプライバシーをなるべく守れるようにしたいです。」

私は「衛生」を
最優先!



「普段から衛生面を気にするので、いろいろ拭けるように除菌シートを入れました。」

私は「快適」を
最優先!



「人が溢れかえる避難所を想像すると、耳栓、簡易トイレはマスト。体を冷やさないようにブランケットも入れました。」



ポーヤンの防災ポーチ。
油性マジック/簡易トイレ/耳栓/コンパクトタオル/
簡易ブランケット/災害用伝言ダイヤルガイド/災害備
蓄用ライト/鉛2つ



避難所でペットボトルの飲
み物などが配られたときに、
まず名前を書けるようにペン
を入れました。

ペンを入れたのは素晴らしい
アイデアですね。私も盲点
でした。配布された物に名
前を書けば、衛生面も安心
ですね。



ほのりんの防災ポーチ。
除菌シート/簡易トイレ/耳栓/生理用ナプキン2個/
簡易ブランケット/災害用伝言ダイヤルガイド/鉛3つ



早坂さんが持ってきた災害
用伝言ダイヤルのガイドは、
持っておくと思いがちです。

災害時はなるべく携帯の充
電を減らしたくないので、公
衆電話を使えるように小銭
もポーチに入れておくとい
いですね。



おすずの防災ポーチ。
簡易トイレ/耳栓/生理用ナプキン2個/コンパクトタ
オル/簡易ブランケット/災害備蓄用ライト/鉛3つ



意外とたくさん入れることが
できました!生理用品は使い
慣れたものを入れました。

「使い慣れたもの」という観
点は大切です。普段飲んで
いるお薬や、コンタクトレン
ズも入れておくとうれしく
なります。



これもあると安心!



- スリッパ
- ホイッスル
- モバイルバッテリー
- 絆創膏

避難所の中は土足厳禁ですが、床で直接寝ることになるので、少し
でも埃や砂の飛散を防ぐためにスリッパを履くことを推奨しています。
建物に閉じ込められたときなどに居場所を知らせたり、LEDライトも
装着されているタイプだと暗闇でも役立ちます。
停電の際にもスマホを充電できる用意があると安心です。
がれき等で足や手をケガすることもありますので、応急手当て用に
何枚かあるといいでしょう。



○災害用伝言ダイヤル
ガイド
「災害用伝言ダイヤル
ポケットガイド」で検索し、プリントしたものポ
ーチに入れておくとうれしく
なります。

machico防災部といっしょ

vol.
05



今回のテーマ 防災ポーチをつくらう

いつどこで災害に遭うかわからない昨今。
そこで注目されているのは、日常的に持ち歩く「防災ポーチ」。
今回は、machico防災部と学生団体COLORweb学生編集部が、
自分の防災ポーチづくりを体験しました。
すべて100円ショップで揃えられます!

(COLORweb学生編集部は、学生目線で仙台・宮城の情報を発信する学生団体です)
協力/DAISO ※店舗によって品揃えが異なり、在庫がない場合がございます。

体験してみた人/
COLORweb学生編集部
おすず、ほのりん
(大学4年生)
machico防災部員
ポーヤン
(新社会人)

教えてくれた人/
仙台市防災・減災アドバイザー
早坂 政人さん

早坂 (以下早)・・・防災グッズは
自宅に備えていますか?
ほのりん (以下ほ)・・・私は一
人暮らしなのですが、きちん
と備えられていないですね。
おすず (以下お)・・・揃えるも
のが多すぎて、何を優先した
らいいかわかりません。
ポーヤン (以下ポ)・・・外出中
に被災する可能性も考えると
どこにどういう備えをしてお
けばいいか、迷います。
早・・・そうですね。備蓄って場所
を取りますし、重い防災リュック
を学校や会社に毎日持って
いくのも現実的ではないですよ
ね。そこで、必要最低限のもの
を毎日使うカバンに入れておこ
うというのが「防災ポーチ」です。
今日は通学や通勤中に被災
し、避難所で一晩過ごす場合
を想定して、自分に必要なア
イテムを考えてみましょう。
ほ・・・リアリティがありますね。
早・・・夕方に災害が起きて停電
になり、真っ暗な夜道を移動
することを想定したとき、「防
災用のライト」があれば、周
囲を照らせるのはもちろん、
自分の居場所を知らせること
もできますし、人や車の誘導
にも使えます。

お・・・避難所に辿り着けば備蓄
品があるイメージですが、個
人で用意しておくというもの
はどんなものですか?
早・・・避難所では十分に備蓄が
ないこともあるので、タオルや
女性の場合は生理用品を各自
で準備しておくとうれしくな
ります。
また、人から借りることがで
きない眼鏡やコンタクトレン
ズ、歯ブラシやマウスウォッ
シュなどもあるといいですね。
ポ・・・季節によって揃えるべき
ものは変わりますか?
早・・・夏は、ハンディタイプの
充電式扇風機をフルに充電し
ておき持っておくと安心です。
冬は、簡易ブランケットを持
っているとうれしくなります。体
温の低下を防ぐのはもちろん、
防水にもなります。
ほ・・・季節ごとにポーチの中身
の見直しが必要ですね。
早・・・衣替えと同じようにポーチ
の中身を見直すことで期限切
れにも対応できます。いちば
んは、楽しみながら用意するこ
と。今日用意したアイテムはす
べて100円ショップで購入
できるので、自分に必要なも
のを想像し、あなたなりのポ
ーチをつくってみてください。

WHAT'S

machico防災部とは

仙台・宮城の人とまちを元気にする地域コミュニティサイト
「せんだいタウン情報machico」の編集部員が、
防災・減災に役立つスキルを体験して発信する「部活動」です。

machicoから
アーカイブが
見られます!



防災グッズ 使い方・活用方法を知ろう

レクチャー／仙台市防災・減災アドバイザー 早坂 政人さん
協力／DAISO ※店舗によって品揃えが異なり、在庫がない場合がございます。

各グッズの詳しい使い方は
動画でも解説しています。
vol.5の動画をご覧ください。



撮影したり
切り取ったりして
ご活用ください



4 コンパクトタオル

大きさ3cm程度のタブレット型で、水をかけると膨らむタオル。コンパクトに持ち歩くことができ、少量の水で膨らむので体を拭いたり周囲を拭いたりする際にも重宝。



ペットボトルなどのキャップ2杯分の水をかけると、瞬時に広がりタオルに。(※商品のサイズにより必要な水の量は異なります)



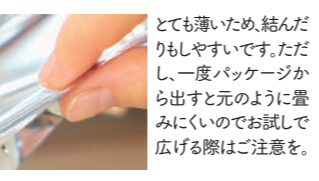
ワッフルタイプの生地は、薄手ですがしっかりしていて柔らか。この商品はMサイズで大きさはおしぼり程度。

3 簡易ブランケット

アルミブランケット、アルミシートなどと表記されていることも。薄手でコンパクトですが保温性に優れ、かつ防水にもなります。広げると畳1畳分ほどの大きさ。



隙間なく体を包むことで保温効果が高まります。屋外で使用する際は、頭もしっかり覆うと防水になり冷えを防ぎます。



とても薄いため、結んだりもしやすいです。ただし、一度パッケージから出すと元のように畳みにくいのでお試して広げる際はご注意ください。

2 災害備蓄用ライト / 光る棒

使用時は、パキッと音がするまで折るように入力すると発光します。防災グッズのほか、パーティグッズのペンライトでもOK。



フック状になっているため、両手がふさがっている際はポケットやカバンに引っ掛けて使うこともできます。(※発光時間は商品により異なります)
水を入れたペットボトルに入れるとランタンの代わりに。小さいお子様がいるご家庭では、ボトルをシールで飾るなどすれば楽しい雰囲気。

1 携帯ミニトイレ / 簡易トイレ

凝固剤がセットになっており、汚物を固めるという仕組み。ごみ袋も封入されているので、固形のごみにして処理できます。断水時でトイレが使用できない際の衛生管理に。



携帯ミニトイレの内容。白い筒状の袋にあらかじめ凝固剤が入っているため、そのまま直接用を足します。使用後は黒いごみ袋に入れて。

簡易トイレの内容。黒い大きめの袋をトイレの便座や、バケツ、段ボールにセット。用を足し終えたら凝固剤を振りかけます。

防災グッズは備えるだけでなく、いざというときに正しく使えるようにしておきたいもの。そこで、前ページの「machico 防災部といっしょ」でみんながポーチに入れたアイテムの使い方、一緒に確認しましょう。

こちらチェック 自分に必要なもの、まだ持っていないものをチェックして、備えてみてはいかがですか。

防災ポーチの内容物候補一覧	
<input type="checkbox"/> 食料(飴、栄養補助食品、お菓子、軽食など)	<input type="checkbox"/> 絆創膏
<input type="checkbox"/> 飲料水	<input type="checkbox"/> 綿棒
<input type="checkbox"/> 雨具/ポンチョ	<input type="checkbox"/> くつつく包帯
<input type="checkbox"/> 不織布パンツ	<input type="checkbox"/> 三角巾/バンダナ
<input type="checkbox"/> 圧縮ソックス	<input type="checkbox"/> マスク
<input type="checkbox"/> コンパクトタオル	<input type="checkbox"/> せっけん/紙せっけん
<input type="checkbox"/> 冷感タオル	<input type="checkbox"/> 消毒液
<input type="checkbox"/> ハンディ扇風機	<input type="checkbox"/> モバイルバッテリー/コード
<input type="checkbox"/> ブランケット/保温アルミシート/寝袋	<input type="checkbox"/> 電池
<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ	<input type="checkbox"/> ヘッドライト
<input type="checkbox"/> ソーイングセット	<input type="checkbox"/> ライト付きホイッスル
<input type="checkbox"/> アイマスク	<input type="checkbox"/> 防犯ブザー
<input type="checkbox"/> 耳せん	<input type="checkbox"/> 方位磁石
<input type="checkbox"/> 歯磨きセット/歯磨きシート/マウスウォッシュ	<input type="checkbox"/> 軍手/ゴム手袋
<input type="checkbox"/> ボディシート	<input type="checkbox"/> 万能ナイフ/マルチツールプレート
<input type="checkbox"/> 簡易トイレ	<input type="checkbox"/> はさみ/カッター
<input type="checkbox"/> ポケットティッシュ	<input type="checkbox"/> 布テープ
<input type="checkbox"/> ウェットティッシュ	<input type="checkbox"/> 油性ペン/筆記用具
<input type="checkbox"/> ビニール袋/ポリ袋/ジッパー付き袋	<input type="checkbox"/> メモ用紙/ポストイット
<input type="checkbox"/> スリッパ/サンダル	<input type="checkbox"/> ポーチ/ポシェット/ドリンクボトル

その他の防災用品	
家具の転倒防止などに	お料理に
<input type="checkbox"/> L字金具	<input type="checkbox"/> 飯ごう(メスティン)
<input type="checkbox"/> 耐震マット	<input type="checkbox"/> 固形燃料
<input type="checkbox"/> クサビ式転倒防止器具	非常持ち出し袋に(ポーチとの重複のぞく)
<input type="checkbox"/> キャスターストッパー	<input type="checkbox"/> ラップ
<input type="checkbox"/> 開き戸・引き出しストッパー	<input type="checkbox"/> アルミシート/レジャーシート(厚手)
<input type="checkbox"/> すべり止めシート	<input type="checkbox"/> 給水袋
<input type="checkbox"/> 飛散防止フィルム	<input type="checkbox"/> サンシェード/簡易テント
照明に	<input type="checkbox"/> 黒ごみ袋/不透明ポーチ(着替えの目隠しに)
<input type="checkbox"/> ランタン	<input type="checkbox"/> 電池チェンジャー
<input type="checkbox"/> ケミカルライト(サイリウム)	<input type="checkbox"/> まくら
<input type="checkbox"/> 蓄光シール	<input type="checkbox"/> 絵本、おもちゃ、ランプ、オセロ など
寒さ対策に	その他
<input type="checkbox"/> 下着/靴下/手袋/ネックウォーマー など	<input type="checkbox"/> 非常持ち出し袋/レジャー用防水バック
<input type="checkbox"/> 窓ガラス断熱シート	<input type="checkbox"/> 衣類・寝具圧縮袋

「アウトドア用品」「トラベル用品」売り場は防災用品の在庫
その他「食品」「衣料品」「衛生用品」「電気用品」「インテリア」売り場もチェック



詳しい情報はこちらもご参考ください→仙台市防災・減災アドバイザー室
<https://www.city.sendai.jp/gensaisuishin/kurashi/anzen/saigaitaisaku/sonaete/adviser/>

ささて in 名取市 閑上 みて

住民の約1割が津波の犠牲となった名取市閑上。多重防御の考えのもと、まちを現地再建した数少ない地区です。震災の記憶と復興の歩みを伝える施設を紹介します。

施設① キ-ワ-ド ▶ □津波被害を知る □証言を聞く □アートを見る □避難を考える □復興を感じる

名取市震災復興伝承館



ジオラマは道路や家並みを精緻に再現。大漁旗は港町である閑上を象徴します。



水深30センチを体感できるコーナー。水圧がかかることから、歩くだけ、ドアを開けるだけでも大変です。

震災について知るだけでなく 防災・減災をリアルに学ぶ
名取川と真山運河の交差点、防波堤と同じ高さ7メートルにかさ上げされたかつての住宅地に名取市震災復興伝承館があります。閑上育ちで職員の高野俊伸さんは、「まずは窓から景色を見て、ここがどんな場所であるかを体感してください。そして大きな津波に襲われたこと、まちは高台に移転することなく現地に再建されたことだけではなく、水害などでの水の脅威から命を守るためのポイントを学んでもらえたら」と語ります。
フロア中央を占めるのは、津波で失われたまちを再現したジオラマと大漁旗。防災・減災の展示も豊富です。



伝承館の目の前には川と運河、運河対岸には海拔約1メートルの旧市街地が広がります。



東日本大震災の教訓を、さまざまな災害への対応に当てはめ、学ぶことができるのがこの施設の特徴。

問 水深30センチの水圧を知っていますか？ ドアの開け閉めや靴を履いた歩行の疑似体験をして、行動がどう制限されるか実感しましょう。

DATA ◎宮城県名取市閑上東1丁目1-1 ☎022-393-6520 🕒9:30~16:30(4月~11月)、10:00~16:00(12月~3月) 🗓毎週火曜日(火曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館)、年末年始(12月29日~1月3日) 🎫入館料無料 🚗10台(同敷地内に大型バス駐車可) 🌐https://www.natori-denshoukan.jp/



施設② キ-ワ-ド ▶ □環境を知る □祈りを捧げる □アートを見る □散策する □まちを感じる

名取市震災メモリアル公園



「芽生えの塔」は高さ8.4メートル。閑上地区における津波の高さを表しています。

閑上のランドマーク「日和山」と慰霊碑「芽生えの塔」を中心に

「祈り」憩い「海を臨む」「日和山」「遺構と伝承」のゾーンから成る広大な空間。震災前は住宅や商店、水産加工場が立ち並んでいました。1920年に海上の様子を見るため築かれた日和山に登れば、公園はもちろん閑上一帯を見渡すことができます。
祈りの広場中央の慰霊碑は、「種の慰霊碑」から発芽した「芽生えの塔」が上へ上へと伸びる姿を象徴。犠牲となった方たちが天に昇っていくイメージであるとともに、市民の復興への強い決意が込められています。



閑上地区一帯を見渡せる日和山。震災直後から人々が鎮魂のために訪れました。



「亡き人を悼み 故郷を想う 故郷を愛する御霊よ 安らかに」と刻まれた「種の慰霊碑」



東日本大震災後、倒れていた石碑に昭和8年3月3日に発生した昭和三陸津波の被害と「地震があったら津波の用心」という教訓が記されていた。

問 園内には1933年の三陸地震津波の震嘯記念碑があります。この碑について震災復興伝承館で調べてみましょう。



DATA ◎宮城県名取市閑上東3丁目3-1 ☎公園に関して:022-384-2111(名取市建設部都市計画課公園係)、震災遺構に関して:022-382-6526(名取市観光物産協会) 🎫無料 🚗駐車場あり 🌐https://www.kankou.natori.miyagi.jp/hisaichi/1366




宮城県 名取市 関上

さてみてマップ

このエリア!

仙臺藩主・伊達政宗公がつくった「貞山城」という運河が残るエリア。近年は海辺のアクティビティを楽しめる場所も増え、新しいにぎわいを生み出しています。





- ③ 名取ゆりあげ温泉 輪りの宿**

 客室に自分の自転車を持ち込めるサイクリストにやさしい宿泊施設。太平洋・広浦湾を一望する絶景ビューが人気です。日帰り温泉もあります。
DATA ◎宮城県名取市関上宇東須賀2-20 ☎022-385-8027 ●日帰り温泉は10:00~20:00、宿泊はチェックイン15:00~ ●日帰り温泉は第2水曜日 🌐https://www.natori-cycle.com/facility
- ② みちのく潮風トレイル 名取トレイルセンター**

 「みちのく潮風トレイル」全線の大型マップや、動画などの情報や歩く文化について発信する施設です。休憩スペースも豊富、野営場ではキャンプを楽しむことができます。
DATA ◎宮城県名取市関上東3丁目12-1 ☎022-398-6181 ●4月~11月/9:00~17:00 12月~3月/9:00~16:00 🔥火曜日・12月29日~1月3日 🌐https://www.mct-natori-tc.jp/
- ① かわまちてらす関上**

 名取川沿いにある関上のランドマーク。レストラン、カフェ、ショップ、アクティビティ、バーベキューなど、バラエティ豊かな施設が揃っています。
DATA ◎宮城県名取市関上中央1丁目6 ☎022-399-6848 ●店舗により異なる ●店舗により異なる 🌐https://kawamachi-terasu.jp/


ひとやすみスポット

INFORMATION

3.11みやぎ語り部講話
 みやぎ東日本大震災津波伝承館にて 毎週土曜日11:00~12:00、13:30~14:30に開催中
 ※講話者等、詳しくはQRコードのウェブサイトをご確認ください。※午前のみ開催の日がありますので、事前にQRコードのウェブサイトをご確認ください。
 ○入場無料 ○事前予約不要




詳しくはこちら! 

宮城県内の震災伝承施設のほか、周辺の観光施設やおすすめグルメを紹介するウェブサイト「みやぎ復興のたび」をリニューアルしました! 

ウェブサイトは こちらからアクセス! 

SNS「いまを発信!復興みやぎ」

宮城の復興の「いま」を SNSでお伝えしています! 皆さまからの投稿もお待ちしております!

Facebook  X (旧Twitter)  Instagram 


いち早く復活した関上名物 港町ならではの楽しみが満載

日曜・祝祭日開催の「ゆりあげ港朝市」は関上きつての観光スポット。カナダ政府などの支援で新築された展示・飲食施設「メイプル館」とともに2013年12月に営業を再開しました。ゆりあげ港朝市協同組合理事長の櫻井広行さんは「震災前と同じ場所での常設店舗は一番乗り」と胸を張ります。

約40の鮮魚店や飲食店が並ぶ他、誰もが参加できる「競り市」、買ったばかりの魚介を焼いて食べる「海鮮炉端焼き」を楽しみながら、このまちの震災体験と復活の心意気にまるごと触れることができます。



営業は6時から13時。早朝から多くの家族連れやグループが買い物に訪れます。

- 施設③**  津波被害を知る 歴史を知る 文化を知る 減災を考える 復興を考える

ゆりあげ港朝市 / メイプル館



朝市から出港するゆりあげ周遊船クルーズ(7月~10月頃運航)やシーカヤック体験(不定期)もあります(有料)。詳細はHPをご確認ください。



「関上の記憶を知ってもらうには、まず楽しんでもらうことから」と櫻井理事長。



「メイプル館」。朝市のない日も営業しています(10時~16時・木曜日)。



〈右2枚〉新鮮な魚介を買ってすぐアツアツを堪能。焼き方も教えてくれる「海鮮炉端焼き」。
 〈左2枚〉地元の生鮮食品などが格安で買える「競り市」。活気にあふれ、リピーターも多数。

DATA ◎宮城県名取市関上東3丁目5-1 ☎022-395-7211 ●「ゆりあげ港朝市」毎週日曜・祝日 6:00~13:00 / 「メイプル館」月曜日~土曜 10:00~16:00、日曜・祝日6:00~13:00 🔥木曜日 🅇駐車場あり(200台) 🌐https://www.yuriageasaichi.jp/

問 「ゆりあげ港朝市」が震災後2年で再建できた要因を調べてみましょう。

答



vol.05

土地勘がない人にも 津波から逃げる目印を

津波工学研究室に在籍する成田峻之輔さんの研究テーマは、津波発生時の安全な場所への避難誘導。命を救うのは迅速で適切な避難行動という観点から、土地勘がない人の逃げる方向の目印となるようアドバルーンを掲げて、避難場所を示すプロジェクトを進めています。

きっかけは神奈川に帰省した際に鎌倉を訪れたときです。「子どものころから親しんだ鎌倉のまちは、地震発生後8分で約10メートル級の津波が来ると予想されています。避難行動を学んだ目で避難路を確認しようと思ったところ、誘導の案内がわかりづらく、建物や観光客がいっぱいで海がどの方向かもわからない。命の危険が迫るなかスマートフォンを使って調べる余裕はありません。津波から逃

成田峻之輔さん（東北大学大学院 工学研究科修士課程2年）の 避難誘導アドバルーン

げる自信はないと痛感しました。

頭に浮かんだのは、地図アプリの目的地を示す赤いピンが津波避難ビルやタワーの上に見えるイメージ。「アナログな発想ですが、何のデバイスも持たない人でも一目で避難場所がわかります」。

当初はVR（仮想現実）空間上でアドバルーンを揚げた場合と揚げない場合を比較する研究のみを想定していた成

田さん。東北大学主催のクラウドファンディングで研究資金50万円を確保。防災関連産業創出を支援する仙台市の補助金も得て、2023年2月、

アドバルーンでどれだけ範囲の人に避難を呼びかけられるかを実験しました。

場所は若林区藤塚の温泉複合施設「アクアイグニス仙台」。つなみぼうさいじつけんの垂れ幕を付けた直径2メートルの気球を屋上に係

留し、25メートルから45メートルまで高さを変えたり垂れ幕の質や文字を変えたりして、

どれほど読み取れたか来場者にアンケートを取りました。

「過半数がアドバルーンに気づけるのは掲揚地点から約50メートルの距離でしたが、条件が良ければ約1・5キロメートル離れた距離からでも認識できることがわかりました」。

実現に向けての課題

社会実装にはいくつかのハードルがあります。まずは、津波警報の受信後すみやかにバルーンを揚げる自動装置の開発。次に、風の影響。そして最大の課題はコスト面です。

気球に注入するのは水素より安全で扱いやすいヘリウムガスですが、これは世界的に枯渇しているため価格が高騰しています。

それでも、視覚に訴えるこ



実証実験をするにあたり「仙台市の屋外広告物許可申請を行うなど様々な手続きも行いました」と成田さん。



2023年2月に行ったアドバルーンの実証実験。アドバルーンの専門業者に依頼し制作した塩化ビニール製のもの。

Baton

発行元

宮城県震災復興本部
(事務局:復興支援・伝承課)

〒980-8570

宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号

TEL:022-211-2443

FAX:022-263-9636



の逸話があったりします。

避難誘導アドバルーンは現代の狼煙となり、普遍的な「稲むらの火」となる可能性を秘めています。

未来を見据えます。

人は古来より狼煙のちしによって情報を伝達したり、安政時代の和歌山県では津波襲来を知らせるため稲むらに火を放って住民を救った「稲むらの火」